

SAPPORO 教区 NEWS

第30号

2020年1月31日

発行：カトリック札幌司教区事務局広報部
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10

Tel. 011-241-2785 / ホームページ : <http://www.csd.or.jp>

主のご降誕と新年のお喜びを申し上げます

◇教皇フランシスコが訪日で残していかれたものは大きい。もう一度思い起こして、その思いを実践していきましょう。

教皇訪日は「すべての命を守るため」をテーマに行われ、教皇フランシスコは、発信されたメッセージで私たちにすべての命を守るために何をなすべきか示されました。確実に一步一步実践していきましょう。

※訪日中の10の教皇公式スピーチや、帰途の機中での記者会見、サンピエトロ広場での一般謁見での振り返りが収録されている「教皇フランシスコ訪日講話集」(1,100円 税別)が、中央協議会から発行されました。また関連のWebページにも掲載されていますので、じっくりお読みいただければと思います。

◆11月23日(土) 訪問先のタイから羽田空港へ到着し大使館へ向かい、多くの信徒の出迎えをうける



◆11月24日(日) 長崎爆心地、西坂の丘殉教者を雨の中表敬訪問して祈りをささげる



◆11月24日（日） 県営長崎球場でミサを執り行う



◆11月24日（日） 広島平和記念公園で祈りをささげる



◆11月25日（月） 東日本大震災（三重災害）被災者との集いで分かち合う



◆11月25日（月） 東京カテドラルでの青年との集いで分かち合い、青年たちに語り掛ける



◆11月25日（月） 東京ドームでミサを執り行う



◆11月26日（火） 上智大学で講話を行う



教区宣教司牧評議会の動き

今年度の教区宣司評では、宣教する共同体づくり、信仰の伝達などについて様々な方面から検討し話し合われています。

2019年度は6月1日と11月9日の2回開催されました。各地区代表の司祭、信徒と修女連代表で構成されています。

6月の宣司評では、「小教区積立金相互利用」についての規則等が承認され、7月1日付で各小教区に発信されました。これは2016年度から検討されていたもので、およそ3年かけて実現できました。皆様のご努力に感謝いたします。

また11月の教区宣司評では、他教区での取り組みなどを参考にして、宣教する共同体としてミッションスクールとの係わりについて検討され答申が出されました。

◆答申内容

具体的な取り組みとして、各地区の平和旬間の活動において、教会だけでなくミッション校を交えて検討する場



を設け、一緒に考え、活動することが出来るようにする。特に生徒の意見を取り入れるよう努力する。

これを受けて、勝谷司教は、年頭司牧書簡の中で、これまで行われてきた平和旬間行事を抜本的に見直し、全地区での教区的な取り組みとして、その行事や企画にミッションスクールの生徒、学生も参加してもらい、その意見を反映してもらおうことと述べて、高校生が自主

的に企画する平和を考える集い、平和行進を高校生も参加しやすい内容で開催時間の検討などをあげています。

全道司祭大会開催

2019年6月25日から27日にかけて、札幌教区全道司祭大会が札幌北広島クラッセホテルで開催された。総勢33名の司祭、修道者が集った。テーマは「青年について」ミッション校と教会との係わり、新しい宣教体制などについてである。

一日目は教区の各委員会と全道6地区からの一年間の報告があり、来道された司祭の紹介や北海道を離れる修道者のあいさつがあった。

二日目の講演会は、今年度、藤学園から北海道カトリック学園に移管された北見藤高等学校の大坪昌広校長が講師となって講演した。内容は「福音と出会う場として！教会の一員であるカトリック学校」というタイトルで、

自己紹介から始まり、ご自身の信仰の歩みや教会との関係、北見藤高等学校の特色や教会と学校との連携と協働について話された。質疑応答の中では、幼稚園では祈りをしているのが高校はどうしているのかという質問があり、違和感の少ない「フランススコの平和の祈り」から始めているとのことであった。また、学校や幼稚園から要望がないと教えに行くことが難しいとの質問では、遠慮なく申し出ていただければありがたいとのことであった。

午後はグループに分かれての分かち合いを行い、三日目の午前中にその報告を行った。その後、北広島教会へ移動し、信徒・修道者



とともにミサを献げて解散した。次回は2020年6月16日から18日にかけて行われる予定である。

月16日から18日にかけて行われる予定である。

東京教会管区司祭研修大会を

札幌教区で開催

2019年10月21日から23日にかけて登別第一滝本館を会場として「東京教会管区司祭研修大会」が開催された。東京教会管区は札幌、仙台、新潟、さいたま、東京、横浜の六つの司教区で構成されているが、司祭・司祭・助祭含めて69名の参加となった。

二日目は午前「多文化



一日目は各教区から、司祭給与、教区財政、独自の取り組みなどの報告があった。これは司祭の高齢化と減少という現状を踏まえて、教区を越えて司祭を派遣するための基盤が構築できないか検討することを目的としており、具体的には司祭が少なく困っている小さな教区があったとき、少しでも余裕のある大きな教区から派遣しても良いかなど。そのためには司祭給与システムの違いをはっきりさせ、どのようにすり合わせていけばいいのかを検討

共生についてー精神科医から聖職者の方々に伝えたいこと」というテーマで、立教大学教授の香山リカさんの講演会が行われた。内容は、2000年続くキリスト教の常識が通用しなくなっている時代に、イエス

の福音をどう伝えていくのかという問いかけであった。特に、現代社会の中の多様性として子ども、高齢者、障害者、民族・人種的少数者、貧者、女性、LGBTなどを大切にし、共生していくという中で、権力者、富裕層、白人、差別主義者の権利を守るのも多様性ではないかという声が大きくなっていること。あるいは、自分らしく生きることや、民主主義で代表を選ぶことや、自らの声をあげたり表現したりすることは権利として与えられているが、自由が大事だからといって、社会的マイノリティの排除を目的とする差別や



扇動、自分の自由だからといって稼げるだけ稼ぐようなことが行われている。このような現代社会の中で聖職者はどうのようにキリストを伝えていけばいいのかを考えるよい題材が与えられた。

二日目午後は自由とし、観光を楽しんだり、ゆつくり温泉につかったりして過ごした。夜は夕食宴会の中で教区ごとに自己紹介をして親睦を深めた。三日目は講演会をもとにグループに分かれて分かち合いを行った。最後の派遣のミサは菊地功大司教を聞いて、司教団、司教団が司式して執行われ、皆それぞれの教区に派遣されていた。



各地区の動き

■帯広教会献堂式行われる

2019年11月4日午前11時から勝谷司教司式で、フランシスコ修道会桑田副管区長はじめ司祭、修道者、信徒など約220名が参加して厳粛の内に執り行われ、新しい聖堂とともにお祝いしました。

献堂式終了後に祝賀会を実施しました。



【釧路地区】

■釧路地区カトリック大会開催

8月24日今春叙階された道東出身の養島神父様を招



き「私の軌跡」と題して、幼少期から受洗・召命に至るご自身の歩みをお話しいただいた。参加者からは大変感銘を受けたという声が多数寄せられ、また信徒間の親交も深めることができた。都合により根室教会が参加できず、参加者は114名と昨年を下回った。今後は高齢化が進み参加者が少なくなることが予想されるため、信徒同士の交流が深まるような新たな企画内容を検討していきたい。

【北見地区】

■合同野外ミサへ改修した紋別教会に集う

7月21日恒例となっている合同野外ミサ、今年も兼ね、北見地区5教会の信徒が紋別教会を訪れた。川上神父様、上杉神父によるミサ後は、交流会で盛り上がり、楽しく思い出深い一日となった。今回は、少しでも多くの信徒が参加できるようにバスを手配。美幌教会、北見教会、遠軽教会を経由し34名が参加。高齢信徒が多いことからバスの手配は好評だった。信徒の高齢化が進んでいることから、今後の野外ミサについては、趣旨や交通

手段等を見直す必要があるという声も聞かれる。



【苫小牧地区】

■苫小牧地区女性大会

「神様ってどんな方ですか」

第54回目となる苫小牧地区女性大会が8月24日伊達教会にて開催、各小教区から55名が参加した。講師は新海神父様が務め、「神様ってどんな方ですか」というテーマでお話しいただ



いた。聖書のことばを聞き、有意義な分かち合いをすることができた。

■苦小牧地区信徒大会

「ともに喜びをもて福音を伝える教会」



第17回苦小牧地区信徒大会が、10月20日(日曜日)、海星学院高校で開催、各小教区から106名が参加した。テーマは「ともに喜びをもて福音を伝える教会」現代における宣教小共同体のあり方について。指導者に勝谷司教を招き、昔の家庭集會の話、若い頃の信徒の交流話しを聞き、参加者から「良い話し合いだった」と感想が寄せられた。その後の分かち合いでも家庭集會の話題などで大変盛り上がった。信徒大会は2年に一度の開催で、今回は苦小牧教会を予定している。

【旭川地区】

■旭川地区カトリック大会

9月1日第64回旭川地区カトリック大会が、勝谷司教を迎え、学校法人カトリック学園に法人移管された旭川藤星高校(旧旭川藤女子高等学校)で開催された。例年大雪クリスタルホールで開催されていた本大会が同校舎を使用して開催するのは実に20年振りとなる。



午前中は講堂にて「居場所」をテーマに信徒のみでの交流・分かち合いを企画、用意した8人掛け25卓(200名分)には事務局の予想を上回る215名が参加、初めに勝谷司教様からテーマ「居場所のある教会」について分かち合いのヒントとなるお話をいただき、その後グループで「来たくなる教会」「そこにいたくなる教会」など自由活発に意見が交わされ大変盛り上がり実り多き時間となった。午後は体育館で勝谷司教司式ミサ、堅信式が行われた。午前中に人が集まらず午後のミサに参加者が多い状況から、今年は新たなスタイルを試みたが、参加者には大変好評



堅信式



ベトナム人技能実習生のパネル展示

だ。以前は旭川藤星高等学校で大会を行っていたが、準備等信徒の負担が大きくなり20年前から公共施設である大雪クリスタルホールで行っていた。しかし、大会を再び藤星校舎で行つてはと云う元学校長の働きかけや、数年前より教会と学校との繋がりを模索していたこともあり、この春、北海道カトリック学園に法人移管し藤星高等学校として生まれ変わった校舎で本大会を実施する運びとなった。会場設営及び撤収は藤星高校の生徒が全面的に協力してくれ、またミサでの聖歌隊にも参加協力してくれたことは今後の大会運営上、非常に心強いものとなった。

【函館地区】

■函館地区カトリック大会

8月25日(日)、宮前町教会に勝谷司教を迎え、函館地区カトリック大会が開催され、およそ400人が集まった。テーマは「新たな福音宣教」今、私達が受けているチャレンジとは」。ミサでは14名の堅信式も行われたが、そのうち4名は高校生で、所属する学校の方々もお祝いに駆け付けていた。午後のプログラムでは、勝谷司教による大会テーマに沿った講話の後、高校生からの海外ボランティア報告を中心に進められ参加者は熱心に聞き入っていた。



■地区黙想会



9月22日宮前町教会で、函館地区に着任されて間もないフィリップ神父を指導者として迎え、「神を知らずの恵み」と題して開催、約200名が参加した。講話ではフィリップ神父の子どもの時代から司祭召命に至るお話もあり、参加者は着任間もないフィリップ神父を知る良い機会にもなった。従来黙想会は土曜と日曜の二日間で行っていたが、高齢化が進み交通手段確保も難しいことから、今回は日曜日のみの一日企画として実施した。

■第60回千軒岳殉教記念ミサ・パネル写真展開催



7月28日(日)、第60回千軒岳殉教記念ミサが行われ、道内外から約40人が参加した。今回は乗用車617台に分乗して実施。従来の一泊二日の行程を変更、朝5時に函館を出発しその日18時頃に帰着する日帰り行程で実施。登山は難所も多く、過去には事故もあったことから、一時中止の声



も上がったが、毎年全道全国から参加者が集まることから、今後も7月最終日に行う予定。

また、第60回を記念し、8月25日から9月1日、宮前町教会にてパネル写真展を開催。たくさんの方々が参加している写真、十字架

【札幌地区】

■使徒職大会

9月8日(日)札幌地区使徒職大会が藤女子大学で開催され、750人が集まった。「信徒は一人ひとり、誰もが福音宣教の当事者である」ということを再度みなさんに考えて頂きたいという願いを込め、今年のテーマを「あなたは誰に信仰を伝えますか」として上杉昌弘神父に講演いただいた。当日気温が30℃を超え、会場内も非常に暑くなりミサ直前に送風機を持ち込むなどして対応。暑い時期の開催については見直すよう意見も出ており、再来年度以降は開催期日の見直しを検討することとなった。

を背負い大千軒岳を登った写真、草刈りをしている写真などが展示され、一般の方々も含め約400名の来場者からは、巡礼登山の苦労や、巡礼地を大切に守り続けてきた先人の様子に触れ、非常に感銘を受けたという声が多数寄せられた。



スデー報告会を中心に、「難民移動移住者委員会って?」と題して外国人支援の報告会も行われた。



■平和旬間

8月6日から8月15日まで平和旬間行事が開催された。8月3日(土)は平和講演会が北一条教会で行われ、講師にSr.弘田しずえ氏(ベリス・メルセス宣教修道女会)を招き「シスターが語る非暴力から生きる歩み」と題して講演会が行われ、約100名が参加した。



祈りの折り鶴を奉納



平和行進



■信徒養成講座

小教区から64名が参加。信徒が主体的に宣教する共同体作りという方針のもと、8月24日(土)吉村信夫氏(六甲学院教諭)を講師に、「福音宣教する小教区に向けて」宣教に関わる人、大集合!と題して講演会を開催。同講演会は今年3月に開催した講演会とのセット企画。(3月は18小教区から62名参加)。

この講演会を通して、教会を取り巻く客観情勢の理解や、信徒の踏み出す道の顕在化に効果があったことから、まとめを各小教区に送り、小教区内で共有し具体的方策につなげていくことを期待したい。

青少年活動報告

■高校生フィリピンボランティア開催

2019年7月30日から8月9日までフィリピンのマニラ周辺で、高校生対象の「フィリピンボランティア」が開催されました。10人の高校生が参加し、3名の高校教諭と佐藤神父が引率しました。

今回の研修での主な目的は三つです。一つ目は、ラ・サール会が運営する「ハイメヒラリオ学校」で小学生から高校生までの子どもたちと交流し、子どもたちの家でのホームステイを通して生活を体験するというものです。二つ目は、日本とフィリピンの歴史を学ぶためにサマツト山の戦争博物館を見学し、またサン・アウグスチン教会で教会とフィリピンの歴史を学ぶことです。三つ目は、路上生活していた子どもたちを引き受け支援する施設を見学して子どもたちと交流し、実際

に街に出て子どもたちが路上生活している場所に行つて現実を知ることです。

ハイメヒラリオでは、収入の少ない漁業や農業を営む親がほとんどです。しかし、親も子どもたちもとても幸せに暮らしています。豊かに暮らすだけではありません。私たちを幸にするのではなく、参加した高校生たちがよく理解できたのは、同じ目線に立つて子どもたちや家族と向き合ったからだと思います。

参加した高校生の感想や写真、スケジュールなどは、各小教区・修道院・カトリック



アジア最古の大学「聖トマス大学」

ク校へ送られた「2019高校生フィリピンボランティア報告書」をご覧ください。

■カト高夏キャンプ報告

恒例の「カト高夏キャンプ」が、8月8～10日の日程で開催されました。キャンプ会場は静内教会の信徒である方が所有する、日高町のとある別荘をその方のご厚意によってお貸し頂き、庭でテントを張ったごしました。今年のカト高夏キャンプの新しい試みとして、今まで高校生に限定されていた参加者を、試験的に中学生まで対象者を広げてみて、結果として9名の参加者が集まり、そのうち高校生は7名、中学生は2名の参加でした。この参加者の他に世話をしてくれる2名の青年、勝谷司教様、千葉神学生、そしてソウル教区の韓国人神学生も2名参加して

下さり、総勢16名もの大人数でのキャンプとなりました。わたしの記憶でもこれほどの大人数でのキャンプは数年ぶりです。キャンプの期間中は台風8号の影響もあり、すべてが良い天候に恵まれたとはいきませんでした。それでも参加者の子供たちは野外での飯ごう炊飯や、BBQ、焚火を囲んでの語り合い、乗馬体験などによって人間より大きな動物とのふれあいも体験し、日常ではあまり体験できないことを経験したことと思います。最終日には



静内教会に聖堂訪問をし、そこで静内教会の子供たちと一緒に遊び、ともに祈るプログラムとしました。参加者の中高生は小さな子供たちと全力の鬼ごっこをしたり、走り回ったりして生き生きと過ごしていた姿が印象的でした。普段はとて引つ込み思案で物静かだった静内教会の中学生が、この時ばかりと大きな声をあげてはしゃぎまわる姿もあり、子供たちのふれあいの中に、一人ひとりの心を開かせてくれる出会いを、神様が用意してくれましたように感じられる瞬間もありました。このキャンプで、会場をお貸しくださった静内教会の方、また協力してくださった静内教会の信徒の皆様、そして同行してくださった勝谷司教様、また神学生の協力のおかげもあり、とても実りあるキャンプであったと思います。本当に心より感謝いたします。このような機会に多くの子供たちを招き、一瞬でも、神様としてイエス様がともにいることを感じられるような体験となることができればと期待しています。

（担当司祭 佐久間神父）

■ネットワーキングの報告

2019年9月21日から22日の2日間、千葉県の聖母マリア幼稚園にてネットワーキング（NW）in東京が開催されました。NWとは様々な地域で活動する青年や司祭・修道者が自由に集い、情報交換と交流を目的として年2回、各教区持ち回りで開催されている全国のイベントです。私が初めてこのNWに参加したのは3年前で、今回で8回目の参加でした。毎回違ったテーマが決められており、参加するたびに新しい経験ができました。



諸活動報告

■カト高50期記念の集い

～期を越えた繋がりこれからも～

そして今回のテーマは「灯して照明！応えて召命！」。召命と聞くと司祭やシスターになることをイメージしがちですが、そのイメージとは離れ青年が自分なりの信仰を見つめていくことが目的とされていきました。今回の参加者は105名で、約10名ずつの班に分かれ交流やわかちあいが行われました。

最初のプログラムはトレジャーハントと称し、班の仲を深めるため皆で力を合わせ色々なミッションをクリアしていくというものでした。ミッションの中で一番印象的だったのが、ひとりひとり違ったハンデを抱えた状態で遠くにあるろうそくに全員が火を灯すというものです。ハンデとは目と耳が使えない、両足が使えない、チャッカマンが手から離れないといったもので、あの人ができないことを私は助けてあげられるだろうかと考えながら協力する姿は日常でも必要な姿だと思われました。その時私は目と耳が使えない状態だったので、状況が全く分からない中で人を信じ自分委ねることの難しさと大切さも実感できました。

他のプログラムは「人生グラフ」を使ったわかちあいでした。人生グラフとは生まれてから今までを横軸にして気持ちの浮き沈みを縦軸で表すものです。自分のグラフを作るにあたって人生を振り返ることとなり、人生のどこで神様との繋がりを感じたか等をわかちあいました。グラフの形も神様への想いも人それぞれで、自分とは違う思考や生き方を知る機会となりました。

私は神様のもとで青年が集うこの時間を幸せだと感じています。自分の教区に

いるだけでは出会えなかった仲間がおり、皆それぞれ違う召命を持って歩んでいると知ることができるところです。他人を見つめることで自分を見つめることができ、人と交わることで神様の愛に気づかされます。世界を広げることで神様の愛の広さと深さを実感できます。そしてその愛を共有しまた新しい仲間伝えていけるこのNWMという場を改めてこれからも繋げていきたいと思えました。

(北26条 武川こむぎ)

1970年(昭和45年)、当時札幌のカトリック信者の高校生が、札幌地区の他の教会の高校生と交流する場が欲しいという強い要望により発足した「札幌地区カトリック高校生連合」(以下カト高)は、今年50期を迎え、10月13日(日曜日)午後3時から「カト高50期記念の集い」がカトリック北一条教会にて行われた。

勝谷太治司教、松村繁彦神父(大阪教区)、佐藤謙一神父、佐久間力神父による記念ミサには、道内外から駆け付けたOB66名、現役高校生5名、合計71名が参加した。残念ながら当日は台風の影響や被害により、道外からの参加予定の数名の方々が欠席となった。ミサはギターによる「フォークミサ」形式で、懐かしさと共に期を越えて一つになったハーモニーが聖堂に響いた。

勝谷司教は、ミサ説教の中で次のように話された。「複雑な現代社会にあって、

教会はあらゆる問題について答えを持ち合わせているわけではないし、どうしたらよいかその回答も持ち合わせているわけではない。しかしむしろそこで悩んでいる人達、答えがない中で苦しんでいる人達に寄り添い続け共々に歩んでいくこと、これが現代の教会の姿である。答えを持ち合わせて示すのではなく、一緒に、今見つけることができないうえを求めて共に悩み苦しんで歩んでいく、この姿勢こそが現代の教会の

姿なのです。」と昨年のシノドスを振り返った後、自身の体験談を交えながら、まさにこのことはカト高の中で代々皆が体験してきたことなのだと言われた。「そのことを皆さんにも思い起こしてもらいたいと思うのです。色々な世代の皆さんがここに集まっています。それぞれの生活の場面で同じように答えが出てこない、難しい問題に直面す



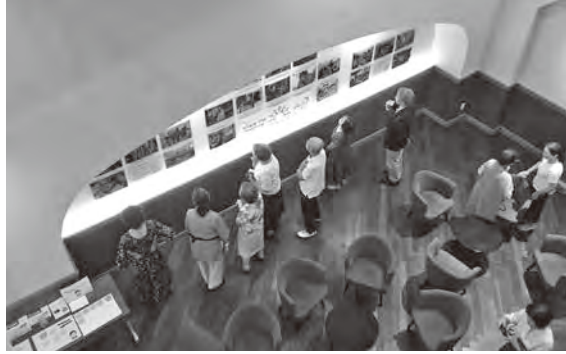
カト高第50期記念の集い

ることは沢山あると思います。しかし大切なことはそこで、何か答えをその場しのぎのような形で見出すとするのではなく、一緒に当事者たちとその視点に立って、共に歩み考えていく姿勢、これが現代の中で生かされている私たちの使命であると思います。「そして、「教会として、教皇様の呼びかけのように若者の声をしっかりと聴き取り、関わりをもち、そして共に歩んでいく教会であるためにはどうしたらよいか、その答えを持ち合わせてはいないのですが、その答えを見出すために、皆さんの祈りと協力を今後もお願いしたいと思えます。」と締めくくった。

この後、会場を札幌教区カトリックセンターに移し立食形式での懇親会が行われた。懇親会では期毎に一人ひとりが自己紹介しそれぞれの近況を語った。また会場には代々のアルバムも用意され、参加者は懐かしく当時を振り返っていた。久しぶりの再会や期を越えての交流に会場は終始なごやかな雰囲気につつまれ、参加者は時間を忘れて親交を深めていた。

■排除ZEROキャンペーン・リレー写真展
(旭川〜札幌〜函館)

教皇フランシスコの呼びかけで始まった「排除ZEROキャンペーン」国籍をこえて人びとが出会うために〜は、国際カリタスの「移住者・難民」をテーマとした2年間にわたるキャンペーン「Share the Journey (ともに旅をしよう)」で、2019年12月に終了しました。キャンペーンの3つの柱「出会う・知る／学ぶ・行動する」のうち、2019年は「知る／学ぶ」を目的とし、全司教区を繋ぐ「リレー写真展」が企画されました。



センター2階から展示の様子

カリタスウガンダが関わっている南スーダンの難民、バングラディシユへ避難したミャンマーのロヒンギヤの人々の他に親子や子どもをテーマにした写真が20枚ほど用意され、開催地ごとに写真を自由を選び、展示するという形式で行われました(詳細はカリタスジャパンの広報誌「we are Caritas」No.17参照)。

札幌教区では、旭川五条教会(7/20〜7/28)、カトリックセンター1階ロビー(8/1〜8/3)、元町教会(8/5〜8/12)で開催されました。札幌では、札幌地区平和旬間実行委員会主催の平和講演会(講師: Sr.弘田しずえ)「シスターが語る非暴力から生きる歩み」が行われることになっていたので、会場となるカトリックセンター1階を利用して展示しました。

「知る／学ぶ」目的は、達成されたでしょうか? からは、次のステップ「行動する」です。「Share the Journey (ともに旅をしよう)」と教皇が呼びかける排除ZEROに向けた取組みはこれからも続きます。今回の写真展は、海外の難民に目を向けましたが、日本国内にも難民・難民申請をしている家族・移住者はたくさんいます。今、特に大きな問題となっているのは、「入国管理センター」と呼ばれる外国人収容施設内の実態です。収容が長期化し、ハンガーストライクで抗議していた40代ナイジェリア人男性が2019年6月に死亡しました。日本国内からの排除ではなく、共に生き、共に行動する教会であり、社会になることを目指しましょう。

■タリタクムセミナー
人身取引の撲滅に
むけて

タリタクム(Talitha Kum)は、人身取引の撲滅に取り組む奉獻生活者の国際ネットワークです。日本では、女子修道会総長管区長会、管区長協議会との連携により、難民移住

移動者委員会内に「人身取引に取り組む部会(略称「タリタクム日本」)が、2017年6月に発足しました。「タリタクム日本」では、人身取引問題について学び、被害の実態を知り、支援について考えるセミナーを年に2回程度、各地で開催しています。2019年は、札幌教区が開催地となり、10月5日(土)の午後、カトリックセンターで行いました。

「人身取引と日本の教会の取組みーベトナム人技能実習生の実態と支援」と題し、行われたセミナー冒頭の挨拶は、さいたま教区の山野内倫昭司教様がご自分の移民体験(幼少期に移民としてアルゼンチンへ行き、アルゼンチンで司祭叙階後、日本へ派遣された)を基にお話をされました。セミナー開催の目的の一つは、「人身取引に取り組む」ことがなげ、カトリック教会の働きに繋がるかを伝えることです。それ



れについては、難民移住移動者委員の山岸素子さんが、「タリタクム日本」の説明と共に日本の人身取引の現状と委員会の取り組みを話しました。そして、今回のセミナーの本題「ベトナム人技能実習生の実態と支援」については、シスターマリア・レティ・ラン(聖ビンセンシオ・パウロの愛徳姉妹会)にお話をいただきました。ご自身が約30年前に

■日本JOC70周年記念パーティーin札幌の報告

9月21日(土)に札幌働く人の家にて、日本JOC70周年記念パーティーが行われました。日本JOC(カトリック青年労働者連盟)は、1949年に北九州小倉教会にてマルチク神父様と青年労働者と共に始まりました。現在の日本JOCは、札幌、東京、京都、大阪、高砂(兵庫)、広島にて活動を行っています。札幌JOCの活動は、数名の青年と札幌JOC協力司祭のカ



レネ神父様

ンデラリア・レネ神父様(青森在住のため、月1回札幌に来ていただいています)と札幌JOCサポーターの長澤夫妻にて行われていま

す。日本JOC 70周年記念パーティーの当日は、約30名の方々が参加してくださいました。札幌JOC、札幌働く人の家の世話人会、CWA(カトリック労働者連盟)札幌地区の協力により行われました。札幌JOC協力司祭のカンデラリア・レネ神父様のあいさつ、札幌働く人の家賛助会代表の上杉昌弘神父様からの祝電、全国JOC会長の新谷葵さんと全国JOC協力司祭のペラール・ピエール神父様の祝辞と昔のJOC経験者からの話、元札幌JOCのみなさんや全国からのお祝いメッセージと続きました。



70周年記念のイラスト

悩み、またどんな目標をもって生きていくかなどの発表もありました。働く青年の現状を聞き、頑張っている姿を皆さんで共有しました。

食事をしながら、青年によるピアノとサクソスのミニコンサートは、みなさんうっとりしました。JOCの青年が作った「ともととも」を皆で歌いこころがうきうきしました。ゲームで大笑いをしながら親睦を深め、最後に写真をとって閉会しました。とてもなごやかな、温かい集まりになりました。皆さんに感謝いたします。今後もJOCと札幌働く人の家をよろしくお願いいたします。JOCでは、いつでも青年を募集しています。

(月寒 長澤幸子)

計報

※神様のみもとでの安息をお祈りいたします

■トラピスト修道院

▽ベルクマンズ小山昭神父 修道院内では洗濯係、医

務係を担当。長く当別教会主任司祭として奉仕する。

2018年2月から介護施設に移り療養していたが、

昨年7月に肺炎にかかり函館市内の病院に入院加療中

でしたが8月28日帰天。修道生活73年、司祭叙階59年。享年87歳

【略歴】

1931年10月1日三ツ石に生まれる

1931年10月3日当別教会で受洗

1946年5月15日入会

1952年4月29日有期誓願宣立

1956年7月2日盛式誓願宣立

1960年3月20日司祭叙階

2019年8月28日帰天

▽ドミニコ上ノ原正修道士 広い修道院の庭の管理や農場作業に従事し9年前よ

り旭ヶ岡の家に入所して静養していたが、6月に脳内出血をおこし加療中だったが10月24日19時25分函館市内の病院にて帰天。享年82歳

【略歴】

1936年11月23日大阪・堺市に生まれる

1957年12月23日長崎・田平教会で受洗

1961年5月5日入会

1964年11月1日有期誓願宣立

1967年11月1日盛式誓願宣立

2019年10月24日帰天

■殉教者聖ゲオルギオのフ

ランシスコ修道会

▽Sr.M・クリスティナ山田千鶴(ちづ)

月形町立病院にて、長年の闘病生活の後、老衰のため8月4日に帰天。享年102歳

【略歴】

1917年2月19日誕生

1952年12月24日受洗

1954年9月8日入会

1957年8月12日初誓願

1960年9月23日終生誓願

2019年8月4日帰天

【略歴】

1924年8月18日誕生

1947年10月30日受洗

1952年3月24日入会

1955年1月13日初誓願

1958年10月15日終生誓願

2004年11月23日金祝

2014年11月22日ダイヤモンド祝

2019年8月21日帰天

■聖ベネディクト女子修道院

▽Sr.アリサ緒方美知子

9月30日入院先の病院で帰天。享年89歳

【略歴】

1930年8月28日誕生

1930年10月山口で受洗

1956年5月アメリカ本部修道院へ入会

1958年7月11日初誓願

1961年7月11日清水沢修道院で終生誓願

2008年7月11日金祝

2018年2月10日ダイヤモンド祝

編集後記

ある記事で、とあるサーチファンド会社の社長である嶋津紀子さんへのお母様からの言葉が印象に残っている。それは「強みを持って生まれた人間は、きちんと努力して、きちんと働いて、他の人間を守る義務がある」という言葉です。嶋津さんは、この言葉が自分にとって糧となり、今の自分があり、地方の小さな会社の再生の一翼を担っているとのことでした。

私たちの宣教活動も嶋津さんのお母さんの言葉のように行いたいものです。自分のタレントに応じた宣教活動を行っているか今一度見直す機会にしたいと思う。

